

今月のメッセージ (2013年8月)

日本銀行富山事務所長
佐子 裕厚

36,500 分の 1

梅雨の合間、富山からクルマで2時間ほどの石川県の温泉宿に行ってきました。周囲の山林が自然のままに残された静謐そのものの宿でした。

清潔な浴室にゆったりとした食事時間。小さな宿のせいか、あらゆるところに気配りが感じられ、心身ともにリラックス出来ました。

宿を始めたきっかけをご主人に尋ねました。「人生100年としても夜は36,500回。その有限な夜の1回をお客様に寛いでいただきたいと思ったのです。どうしたら良いのか、毎日が試行錯誤の連続です」。周囲の自然と宿の調和を考え、食事や調度品に四季の趣を出し、礼儀正しく接遇するように従業員を教育し……。

明治から大正にかけて日本の中部地方を旅した英国人のウォルター・ウェストンは、日本の自然の美しさと人々の礼儀正しさを感動とともに記録しています。「私の記憶に最も強く刻まれている特徴は、さまざまな変化を見せる非常に美しい自然と、人間的興味がユニークな結びつきを示していることである」¹。

現在、日本を訪れる外国人観光客はウェストンの頃とは比べものにならないくらい多くなっています²。ただ、富山県を訪れる外国人観光客についてみると、他の都道府県に比べてまだまだ少ないのが実情です³。総面積に占める自然公園の割合にしても観光資源の数(自然公園部門。日本交通公社の調査による)にしても、富山県は全国第5位の高さになっています。大都会にはない魅力がまだまだ知られずに残されていると思います。

美しい自然と宿屋のご主人のような「おもてなしの心」がある限り、富山県(ひいては北陸地方)は、人を惹きつけるオアシスのような存在であり続ける。そんな気にさせられた一晩でした。

以 上

¹ 北アルプスの名付け親でもある登山家のウェストンは上高地にあるレリーフでも知られています。ウェストンの旅行記は「日本アルプス」、「日本アルプス再訪」として平凡社から出版されています。

² 平成24年に日本を訪れた外国人観光客は8,358千人でした。明治・大正期のデータは見当たらなかったのですが、昭和39年でも外国人観光客は352千人に過ぎませんでした。

³ 外国人の延べ宿泊数をみますと、東京、大阪、京都、北海道などが多く、富山県は全国第30位に止まっています(2011年。観光庁調査。宿泊数は延べ51千泊と東京<5,652千泊>の100分の1以下で、長野<224千泊>と比べても4分の1以下です)。